

# きずな

北九州市立折尾西小学校

学校だより 12月号②

平成30年12月18日(火)

校長 成重純一

## 本物に触れる 音楽鑑賞会

先月と今月の二回に分けて、音楽鑑賞会を音楽室で開きました。低学年と中学年の鑑賞会は、先月に、高学年の鑑賞会は、先週行いました。バイオリン、チェロ、ピアノ、トランペット、フルートをそれぞれ演奏されていた方は、県内で活躍されている演奏家の方々です。

各学年の音楽の教科書に出てくる曲を演奏してくださいました。生の演奏を聴いた子どもたちからは、「こんなに近くで見たのは初めて。」という声が聞かれました。

今の子どもたちは、その気になれば、インターネット配信の音楽なら、手軽に聴くことができる環境で生活してい

ます。しかし、どんなに生活が便利になっても一流の演奏者の音を生で聴くのは、全く別の世界です。

これからも子どもたちが、本物に触れる体験を準備したいと考えています。



## スマホが学力に与える影響

『スマホが学力を破壊する』(川島隆太著)という本があります。表紙の帯には、「スマホをやめるだけで偏差値が10上がります。」と書いてあります。本の内容で驚いたのは、仙台市教育委員会と相談の上で著者が行った追跡調査の結果です。7万人の児童・生徒に番号を振って、平成26年度から27年度にかけて行いました。

その結果から分かったことは、次のことです。

- ① 26年度も27年度もスマホを使っていない約30%の子どもは、よい成績がさらによくなった。
- ② 26年度にスマホを使っていなかったが、27年度に使い始めた約15%の子どもは、26年度に比べて27年度は成績が下がった。
- ③ 反対に、26年度に使っていたが、27年度の調査時にはやめていた約6%の子どもは、低かった成績が上がり始めた。
- ④ 26年度も27年度も使い続けた約50%の子どもは、低かった成績がさらに下がった。



さらに、他の調査では、「たとえ家で2時間以上勉強したとしても、携帯・スマホを3時間以上使ってしまうと、ほとんど家で勉強しないが携帯・スマホを使わない子どもたちの方が成績がよくなってしまふこと」が分かっています。

著者は、スマホを使うことによって睡眠時間が短くなり、成績が下がるのではなく、スマホを使う行為自体が、脳など、体の一部に何らかの影響を与えているのではないかと考えています。

例えば「21時以降は、電源を切る。」など、具体的なルールをお子さんと話し合ってみてください。